

陸路の意義伝える



谷口技監(左)にルートを説明する協議会メンバー。東京都の国土交通省で

桜島架橋推進協議会(田中俊實会長)は13日、東京都の国土交通省を訪れ、「国道224号桜島架橋」の実現に関する要望書を提出した。「命を守る橋」「浮揚の橋」と位置付け、県が可能性調査を予算化したことや機運の盛り上げを伝えた。

谷口技監 「技術面など協力」

本省に対する要望活動は、今回で3回目。県が「錦江湾を横断する交通ネットワーク調査」を予算化したことを受けて、東京都事務所行政第五課(土木部担当)の瀬戸口淳一課長や大隅総合開発期成会の担当者も同行した。同省では、谷口博昭技監や金井道夫道路局長、西脇隆俊次長のほか、道路局の花岡洋文総務課長や内海英一路政課長、吉崎収地方道・環境課長らが対応。協議会から関係各課に要望書が手渡された。

谷口技監は、「県が可能性調査を予算付けしたことは大きな一歩。今後、その推移を見守り、技術面など何かできることがあれば協力していきたい」と述べた。

同協議会は9日、福岡市の九州地方整備局にも内閣府の民間資金等活用事業(PFI)推進委員会はこのほど、総合部会検討会を開き、PFI

PFI事業契約の締結は、中規模な庁舎や宿舎などの新築案件で、所有権の移転時期がBTO(事業者が施設建設後に所有権を管理者に移転する)方式を採用するものを想定。PFI事業契約書の策定に必要な項目ごとに、管理者と選定事業者が果たすべき役割などを明示する内容となっている。

業者格付・県・市町村予算・発注予定工事等々情報は盛りだくさん

全国で最初に電子入札を導入するなど、新入札制度の象徴的な存在だった神奈川県横須賀市の「横須賀方式」が見直されることになった。6月28日の市長選で横須賀市長に当選した吉田雄人氏が、初登壇した10日の就任会見で、神奈川県の入札制度を参考に制度を見直すことを明言。

横須賀方式を転換へ 新市長「地元優先の制度に」 子入札を導入した。また、入札参加者の応札額を最低制限価格を算出する変動型最低制限価格制度を採用している。

横須賀方式について吉田市長は「必ずしも優れているとは思われない。大切なのは、職員がしっかりと設計し、積算し、内容を議論でき直したい。地元の仕事は地元の企業を優先して入札を行いたい」と表明した。参考とするのが、工事の品質確保のため積算基準を明確にした上で案件ごとに最低制限価格を設け、施工能力に応じたランクと地域要件を設定、予定価格を事後公表する県の入札制度「かながわ方式」。地元中小建設業者の健全育成と、競争性・透明性・公平性の確保を目指している。

また不可抗力による損害に対する負担の在り方をはじめとする論議の議論も尽くされていなく、さらには検討を重ねていく考えだ。



上野 竜哉



これがきっかけで、ウエイクボードに夢中になった。本やビデオを購入し、見よう見まねでの練習が続いた。その年の11月には、沖縄で初めてプロの滑りを見た。その超人的な動きは、同じ人間とは思えなかった。

私の生きる道

私はますますウエイクボードにのめり込み、翌年の春にはオーストラリアまで足を運んだ。現地では、7人の仲間との共同生活で1ヵ月滞在し、ゆっくりとした時間の中でウエイクボードライフを楽しんだ。帰国後、沖縄の宮古島でウエイクボードの店を開こうと思ったが、地元との商談がうまく

トを買い、一冬かけて自分たちで修理をした。そのボートが動いたときの感動は、一生の宝物だ。しかし、そのボートもわずか1年の寿命で、それを機に私は鹿児島へ帰ってきた。振り返ると、当時の自分の熱意と行動力、向上心に驚かされる。そう思うと、何だかちっぽけな今の自分に腹が立った。昔の自分に負けたくない。私は何をしたいのか? 私はどうしたいのか? 私はどう生きたいのか? 大人になると「しなく

ては」という「何か」にどうもわかっていない。自分の本当の気持ちに自分なりに気づく。もう一つ、自分の本当の声に耳を傾けて、自分らしい道を大切に、自分に正直に生きたいと思った。最後に、故山下幸之助氏の言葉を紹介したい。「青春」青春とは心の若さである。信念と希望にあふれ勇気にみちて日に新たな活動をつづけるかぎり青春は永遠にその人のものである。(株)新日本技術コンサルタント常務取締役)

建築コスト管理士試験

9月7日まで受付け

日本建築積算協会は、21年度建築コスト管理士試験の受験申し込みを9月7日まで本部で受け付けている。試験は10月25日に鹿児島市のポリテクセンター鹿児島など全国9都市で実施する。合格発表は12月14日予定。受験資格は、①建築積算資格者取得後、更新登録を1回以上行い、かつ建築関連業務を10年以上経験。うち、建築コスト関連業務で責任ある業務に2年以上の実務経験。②建築関連業務を10年以上経験し、うち建築コスト関連業務で責任ある業務を5年以上経験する者。③かつ受験年齢が試験当日で32歳以上の者。④建築コスト管理士は、コスト関連領域にある積算技術をベースに、建築コストに堪能な技術者を育成し、コストの透明性・公平性・妥当性を追及して還元支援することで建築生産の発展と社会に寄与するとともに、建築積算技術者の技術水準および社会的地位の向上を図ることが目的。なお4月時点での登録者数は1351人。受験手数料は2万8350円。申し込みは、協会ホームページ(<http://www.baji.or.jp>)掲載の申込フォームから。問い合わせは、同協会(03・3453・9591)まで。

建設業の詳しい情報は...

<http://www.kc-news.co.jp>

業者格付・県・市町村予算・発注予定工事等々

情報は盛りだくさん

お問い合わせ: 099-222-6423

無料体験実施中